

モラルサイエンス研究会

## 「モラロジーが目指す公共性とは？」

令和5年7月5日(水)、モラルサイエンス研究推進プロジェクトによるモラルサイエンス研究会(共通テーマ「モラロジーが目指す公共性とは？」)をオンラインにて開催しました。

本報告者である津城寛文先生(筑波大学名誉教授)からは、「公共性の射程——限定されたものから無限定なものへ」をテーマにした報告がありました。報告では、まずジャン＝ジャック・ルソー、アダム・スミス、ロバート・オーウェン、二宮尊徳の四つの古典を振り返り、現代日本における公共性(圏)論の整理を踏まえた上で試論を展開した後、モラロジーの現在地についても言及されました。

小報告者である大野正英教授(麗澤大学経済学部、道科研)は、「公共性を捉える視点—津城報告を受けて」をテーマに、公共のもつ三つ(公的なもの、共通するもの、開かれているもの)の意味と二つの次元(空間的・時間的な広がり)、私的善と公共善の関係について述べた後、理念としての公共性と実践としての公共性についての問題提起もされました。

小報告者である梅田徹客員教授(麗澤大学国際学部、道科研)は「モラロジーを公共性の視点から検討する」をテーマに、モラロジーにおける「五大原理」と公共性を「自分自身」「自分と他人」「自分と社会」という三つの観点から検討しました。

本報告・小報告の後は、田島忠篤客員教授(道科研)からコメントをいただき、質疑応答では、司会を大野正英教授(麗澤大学経済学部、道科研)が担当し、対面とオンライン参加者も交えて活発な意見交換が行われました。

(文責：モラルサイエンス研究推進プロジェクト・リーダー 冬月 律)